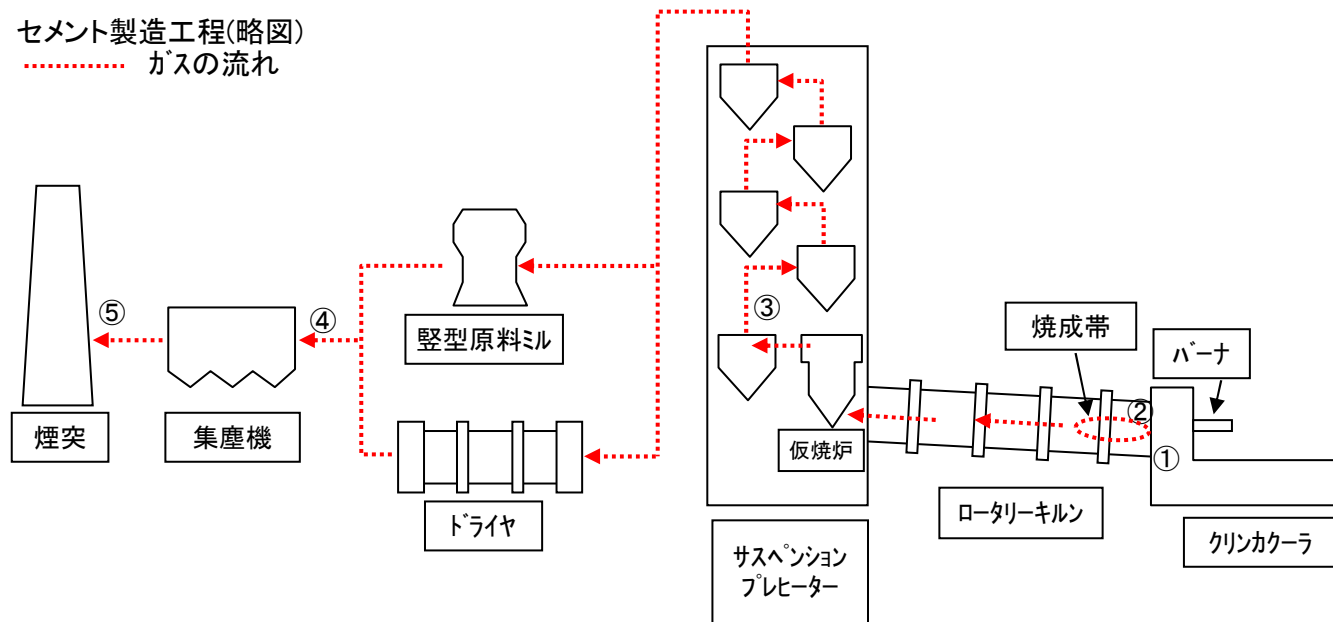


公表データの測定位置(イメージ図)

セメント製造工程(略図)
 ガスの流れ



- 1) 燃焼室中の燃焼ガス温度(代用:クリンカ落口温度or焼点温度)図中①or②
- 2) 集塵機入口ガス温度 図中④
- 3) 煙突から排出される排ガス中の一酸化炭素濃度(集塵機出口、集塵機入口) 図中④or⑤
- 4) 焼成炉中の温度(代用:クリンカ落口温度or焼点温度)図中①or②
- 5) 煙突から排出されるダイオキシン類濃度、ばい煙濃度(硫酸化合物、ばいじん、塩化水素及び窒素酸化物) 図中⑤

・測定値条件

- 1) 燃焼室中の燃焼ガス温度の測定場所としてはロータリーキルンの窯尻部が適切であると思われるが、ガス温度が高温であること、高温のセメント原料が多量に浮遊していることから信頼性のある温度を連続的に測定することが困難な環境にあるため、産廃物再生利用条件の燃焼ガス温度が800℃以上を立証できる箇所としてクリンカ落口温度又はロータリーキルン焼点温度を代用する。
- 3) 煙突から排出される一酸化炭素の濃度が100ppm以下となるように焼却することとされているが、改正省令により、煙突から排出される排ガス中のダイオキシン類の発生抑制のための燃焼に係る維持管理の指標として一酸化炭素の濃度を用いることが適当でないものとして環境大臣が定める焼却施設であって、当該排ガス中のダイオキシン類の濃度を3ヶ月に1回以上測定し、かつ、記録するものにあつては、この限りではない。
 上記の内容もあるが、一酸化炭素の測定は実施する。集塵機出口、集塵機入口のどちらにするかは現在、濃度計を設置している場所によるものとする。
- 4) 燃焼炉中の温度の測定場所としてはロータリーキルンの焼点温度が適切であると思われるが、高温のクリンカダストが多量に浮遊していることから信頼性のある温度を連続的に測定することが困難な環境にある場合は、焼点温度より100℃程低い値となるが、焼成炉中温度1000℃以上を立証できる箇所としてクリンカ落口温度を代用する。

一般廃棄物及び産業廃棄物処理施設維持管理記録簿【焼却施設】(法第八条の三第二項 法第十五条の二の三第二項)

○燃焼ガス及び排ガスの分析の実施状況と措置

- 関係法令 施行規則第四条の五の二(一般廃棄物)及び施行規則第十二条の七の二(産業廃棄物)ロ)焼却施設の燃焼室中の燃焼ガスの温度等、ハ)冷却設備及び排ガス処理設備にたい積したばいじんの除去を行った年月日、ニ)煙突から排出される排ガス中のダイオキシン類の濃度及びばい煙濃度、ホ)固形燃料の保管設備内の清掃を行った年月日であり、これに則って下表を作成した。
- 測定値条件

- ロ)ト 燃焼室中の燃焼ガス温度の測定場所としてはローリーキルンの窯尻部が適切であると思われるが、ガス温度が高温であること、高温のセメント原料が多量に浮遊していることから信頼性のある温度を連続的に測定することが困難な環境にあるため、産廃物再生利用条件の燃焼ガス温度が800℃以上を立証できる箇所としてケリカ落口温度又はローリーキルン焼点温度を代用する。
- ロ)ヲ 煙突から排出される一酸化炭素の濃度が100ppm以下となるように焼却することとされているが、改正省令により、煙突から排出される排ガス中のダイオキシン類の発生抑制のための燃焼に係る維持管理の指標として一酸化炭素の濃度を用いることが適当でないものとして環境大臣が定める焼却施設であって、当該排ガス中のダイオキシン類の濃度を3ヶ月に1回以上測定し、かつ、記録するものにあつては、この限りではない。上記の内容もあるが、一酸化炭素の測定は実施する。集塵機出口、集塵機入口のどちらにするかは現在、濃度計を設置している場所によるものとする。
- ロ)ヅ 燃焼炉中の温度の測定場所としてはローリーキルンの焼点温度が適切であると思われるが、高温のケリカダストが多量に浮遊していることから信頼性のある温度を連続的に測定することが困難な環境にある場合は、焼点温度より100℃程低い値となるが、焼成炉中温度1000℃以上を立証できる箇所としてケリカ落口温度を代用する。
- ロ) ニ) ダイオキシンについてはロ)ヲ同様の条件となる。

2021年度 熊谷工場 2号キルン

項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
一 般 廃 棄 物	ロ) ト 燃焼室中の燃焼ガスの温度を連続的に測定し、且つ、記録すること。 測定値：ケリカ落口温度orローリーキルン焼点温度	(1)測定位置 図中①or② (2)測定年月日 (3)測定結果 (落口温度) 平均値	①落口温度 連続測定 1,346℃	①落口温度 連続測定 1,300℃	①落口温度 連続測定 1,316℃	①落口温度 連続測定 1,322℃	①落口温度 連続測定 1,325℃	①落口温度 連続測定 1,331℃	①落口温度 連続測定 1,325℃	①落口温度 連続測定 1,321℃	①落口温度 連続測定 1,318℃	①落口温度 連続測定 1,321℃	①落口温度 連続測定 1,342℃	①落口温度 連続測定 1,338℃	
	リ 集じん器に流入する燃焼ガスの温度。但し、集じん器内で燃焼ガスの温度を速やかにおおむね摂氏200度以下に冷却することができる場合は集じん器内で冷却された 燃焼ガスの温度を連続的に測定し、且つ、記録すること。 測定値：集塵器の入口ガス温度	(1)測定位置 図中④ (2)測定年月日 (3)測定結果 基準値 最大値	④集塵機入口 連続測定 ≦200℃	④集塵機入口 連続測定 ≦200℃	④集塵機入口 連続測定 ≦200℃	④集塵機入口 連続測定 ≦200℃	④集塵機入口 連続測定 ≦200℃	④集塵機入口 連続測定 ≦200℃	④集塵機入口 連続測定 ≦200℃	④集塵機入口 連続測定 ≦200℃	④集塵機入口 連続測定 ≦200℃	④集塵機入口 連続測定 ≦200℃	④集塵機入口 連続測定 ≦200℃	④集塵機入口 連続測定 ≦200℃	④集塵機入口 連続測定 ≦200℃
	ヲ 煙突から排出される排ガス中の一酸化炭素の濃度を連続的に測定し、且つ、記録すること。 測定値：集塵機出口or集塵機入口	(1)測定位置 図中④or⑤ (2)測定年月日 (3)測定結果 (集塵機出口) 平均値	⑤集塵機出口 連続測定 770ppm	⑤集塵機出口 連続測定 1,228ppm	⑤集塵機出口 連続測定 1,418ppm	⑤集塵機出口 連続測定 961ppm	⑤集塵機出口 連続測定 785ppm	⑤集塵機出口 連続測定 1,078ppm	⑤集塵機出口 連続測定 1,050ppm	⑤集塵機出口 連続測定 1,049ppm	⑤集塵機出口 連続測定 1,014ppm	⑤集塵機出口 連続測定 984ppm	⑤集塵機出口 連続測定 763ppm	⑤集塵機出口 連続測定 691ppm	
	ヅ ばいじん又は焼却灰の焼成を行う場合にあっては、焼成炉中の温度を摂氏1000度以上に保つとともに、焼成炉中の温度を連続的に測定し、且つ、記録すること。 測定値：ケリカ落口温度orローリーキルン焼点温度	(1)測定位置 図中①or② (2)測定年月日 (3)測定結果 基準値 最小値	①落口温度 連続測定 ≧1,000℃	①落口温度 連続測定 ≧1,000℃	①落口温度 連続測定 ≧1,000℃	①落口温度 連続測定 ≧1,000℃	①落口温度 連続測定 ≧1,000℃	①落口温度 連続測定 ≧1,000℃	①落口温度 連続測定 ≧1,000℃	①落口温度 連続測定 ≧1,000℃	①落口温度 連続測定 ≧1,000℃	①落口温度 連続測定 ≧1,000℃	①落口温度 連続測定 ≧1,000℃	①落口温度 連続測定 ≧1,000℃	①落口温度 連続測定 ≧1,000℃
	ハ) 冷却設備及び排ガス処理設備にたい積したばいじんの除去を行った年月日	除去年月日	運転中は連続	運転中は連続	運転中は連続	運転中は連続	運転中は連続	運転中は連続	2021年10月1日	運転中は連続	運転中は連続	運転中は連続	運転中は連続	2022年3月24日	
	二) 産 業 廃 棄 物	煙突から排出される排ガス中のダイオキシン類の濃度を毎年一回以上、硫酸酸化物、ばいじん、塩化水素及び窒素酸化物は六ヶ月に一回以上測定し、かつ、記録すること。 但し、セメントキルンは上記：測定値条件2)ロ)ヲに該当する為、ダイオキシン類の濃度は3ヶ月に1回以上測定し、かつ、記録する。	ダイオキシン (1)排ガス採取位置 図中⑤ (2)排ガス採取年月日 (3)結果取得年月日 (4)測定結果 基準値	⑤集塵機出口 2021年4月25日 2021年5月26日 0.00045ng-TEQ/m3N ≦0.1ng-TEQ/Nm ³	⑤集塵機出口 - 2021年7月2日 -	⑤集塵機出口 2021年6月18日 2021年7月2日 0.00098ng-TEQ/m3N ≦0.1ng-TEQ/Nm ³	⑤集塵機出口 - 2021年8月18日 -	⑤集塵機出口 2021年8月6日 2021年9月22日 0.0012ng-TEQ/m3N ≦0.1ng-TEQ/Nm ³	⑤集塵機出口 2021年10月22日 2021年11月19日 -	⑤集塵機出口 2021年12月17日 2022年1月17日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年3月11日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年3月11日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年3月11日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年3月11日 -	
		硫酸酸化物	(1)排ガス採取位置 図中⑤ (2)排ガス採取年月日 (3)結果取得年月日 (4)測定結果 基準値	⑤集塵機出口 2021年4月25日 2021年5月17日 2ppm ≦1,140ppm	⑤集塵機出口 2021年6月18日 2021年7月2日 2ppm ≦1,140ppm	⑤集塵機出口 2021年8月18日 2021年8月25日 1ppm ≦1,140ppm	⑤集塵機出口 2021年10月22日 2021年11月10日 3ppm ≦1,140ppm	⑤集塵機出口 2021年12月17日 2022年1月12日 2ppm ≦1,140ppm	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 5ppm ≦1,140ppm	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -
		ばいじん	(1)排ガス採取位置 図中⑤ (2)排ガス採取年月日 (3)結果取得年月日 (4)測定結果 基準値	⑤集塵機出口 2021年4月25日 2021年5月17日 0.0005g/m3N ≦0.1g/Nm ³	⑤集塵機出口 2021年6月18日 2021年7月2日 0.0009g/m3N ≦0.1g/Nm ³	⑤集塵機出口 2021年8月18日 2021年8月25日 0.0014g/m3N ≦0.1g/Nm ³	⑤集塵機出口 2021年10月22日 2021年11月10日 0.0036g/m3N ≦0.1g/Nm ³	⑤集塵機出口 2021年12月17日 2022年1月12日 0.0006g/m3N ≦0.1g/Nm ³	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 0.0005g/m3N ≦0.1g/Nm ³	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -
		塩化水素	(1)排ガス採取位置 図中⑤ (2)排ガス採取年月日 (3)結果取得年月日 (4)測定結果 基準値	⑤集塵機出口 2021年4月25日 2021年5月17日 3mg/m3N ≦700mg/Nm ³	⑤集塵機出口 2021年6月18日 2021年7月2日 -	⑤集塵機出口 2021年8月18日 2021年8月25日 -	⑤集塵機出口 2021年10月22日 2021年11月10日 3mg/m3N ≦700mg/Nm ³	⑤集塵機出口 2021年12月17日 2022年1月12日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -
		窒素酸化物	(1)排ガス採取位置 図中⑤ (2)排ガス採取年月日 (3)結果取得年月日 (4)測定結果 基準値	⑤集塵機出口 2021年4月25日 2021年5月17日 170ppm ≦480ppm	⑤集塵機出口 2021年6月18日 2021年7月2日 210ppm ≦480ppm	⑤集塵機出口 2021年8月18日 2021年8月25日 -	⑤集塵機出口 2021年10月22日 2021年11月10日 260ppm ≦480ppm	⑤集塵機出口 2021年12月17日 2022年1月12日 200ppm ≦480ppm	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 280ppm ≦480ppm	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -	⑤集塵機出口 2022年2月6日 2022年2月22日 -
	共 通	各工場ダイオキシン、ばい煙濃度基準値													
		ダイオキシン 硫酸酸化物 ばいじん 塩化水素 窒素酸化物	基準値 ≦0.1g-TEQ/Nm ³ ≦1.140ppm ≦0.1g/Nm ³ ≦700mg/Nm ³ ≦480ppm	及及び条例名 廃 防 法 (K値17.5) 大 防 法 大 防 法 大 防 法											
	* 測定結果の符号(<)の付いた数値は、定量下限値または検出下限値を示す【コメント】														